

専攻科看護学専攻 前期 専門基礎科目／専門強化科目

1. 国際看護論
2. 看護における統計学の基礎
3. 看護倫理
4. 感染看護
5. 地域包括ケア論
6. ライフサイクルにおける看護支援
7. 看護理論
8. 臨地実践研修
9. 看護実践研究

専攻科看護学専攻

科目名:	国際看護論	単位	開講時期	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択			
		1	前期	専門基礎科目	講義	選択			
担当教員:	長谷川雅美他								
授業科目の学習教育目標の概要:									
国際的視野で健康問題およびその背景を理解し、国際看護活動の果たす役割や先進国と開発途上国の健康問題の比較、異文化コミュニケーションの実際を学ぶ。									
授 業 計 画		学 習 内 容				担当教員			
① オリエンテーション、学習内容の説明		国際看護を学ぶ視点				長谷川			
② グローバルナーシングについて		グローバルナーシングとは				長谷川			
③ 異文化・多文化と看護および看護の実際		異文化・多文化が看護に及ぼす影響について				長谷川			
④ 地域社会における国際看護		我が国における国際看護の実際				長谷川			
⑤ 様々な環境下での看護		災害、感染、戦時下などでの看護				非常勤講師			
⑥ 国際的看護活動の実際1		事例紹介				非常勤講師			
⑦ 国際的看護活動の実際2		事例紹介				非常勤講師			
⑧ グループディスカッション		学生間での意見交換				長谷川			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	40 %	発表:	40 %	実技試験:	%	その他:	20 %
使用テキスト: 適宜、資料を配布する。				その他参考文献など: 南裕子監修: 国際看護学 (中山書店)					
受講上の留意点 (担当者からのメッセージ): 主体的な授業参加を希望します。様々な看護スタイルを学ぶとともに、文化や生活様式など国際的視点で、看護の在り方を発表してください。									

専攻科看護学専攻

科目名:	看護における統計学の基礎	単位	開講時期	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択			
		2	前期	専門基礎科目	講義	選択			
担当教員:	寺西 敬子								
授業科目の学習教育目標の概要:									
データの性質把握、データの特徴の読み取り等を行うための基本的統計量及び統計的推定や検証を行う際に必要な統計量分布等について理解する。また、二つのデータグループ間の違いや関係を探るデータ分析手法に習熟し、Excelの関数機能を使って、看護の現場で根拠に基づいた実践を実施するための基礎力を見につける。									
授業計画		学習内容				担当教員			
①看護にける統計学の必要性		根拠に基づいた実践のための統計学の活用				寺西			
②統計学の基礎(1)		データの種類と特徴、データ整理に必要な基本統計量(平均、最頻値・中央値、分散・標準偏差、相関)				寺西			
③統計学の基礎(2)		量的データの記述的解析、グラフの作成				寺西			
④統計学の基礎(3)		質的データの記述的解析、グラフの作成				寺西			
⑤統計学の基礎(4)(演習)		Excelを用いて記述的解析、グラフの作成の演習を行う。				寺西			
⑥推定と検定		母集団、標本集団、統計学的推論、帰無仮説				寺西			
⑦平均の推定と検定		母集団の平均の推定、平均の差の検定				寺西			
⑧割合の推定と検定		母集団の割合の推定、割合の差の検定				寺西			
⑨相関と回帰		相関と回帰の考え方、違い				寺西			
⑩オッズ比		2×2表における関連の強さを示す指標				寺西			
⑪交絡因子の配慮		交絡因子および配慮の方法				寺西			
⑫多変量解析について		複数の変数から他の変数を予測する方法。交絡因子の調整方法の一つとしての多変量解析とその限界。				寺西			
⑬一貫性の評価		質的データの一致度の評価、質問の回答の一貫性の評価				寺西			
⑭Excel関数機能を活用した統計処理(1)		・Excel関数機能を使って、授業内容を確認するための演習を実施する。				寺西			
⑮Excel関数機能を活用した統計処理(2)		Excel関数機能を使って、授業内容を確認するための演習を実施する。				寺西			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	50 %	発表:	%	実技試験:	%	その他:	50 %
使用テキスト:		その他参考文献など: 基礎から学ぶ楽しい保健統計、医学書院、中村好一、ISBN:978-4-260-02549-2							
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):									

専攻科看護学専攻

科目名:	看護倫理	単位	開講時期	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択
		2	前期	専門基礎科目	講義	選択
担当教員:	大橋 達子(准教授)坂東 紀代美(教授)					
授業科目の学習教育目標の概要:						
病棟での実務経験から、治療への患者・家族の意思決定場面などでそれぞれの思いを理解し、チーム医療に必要な倫理的配慮と看護師の役割について様々な葛藤を感じながらも考えることができる。倫理とは何か、医療の場において看護に求められる倫理とそれに基づいた援助とは何かを考え、事例検討を通して倫理的感性を高め、問題解決の取り組みを通してより良い看護について考えることができる。						
授業計画		学習内容				担当教員
①倫理学の基本的な考え方	倫理原則、他者理解と対話のための理論				坂東	
②生命倫理:生命倫理とは	理論、看護職の責務、医療倫理に関する宣言・綱領				坂東	
③生と生殖の生命倫理、死の生命倫理	移植医療、手術看護、認知症看護など				坂東	
④先端医療と制度をめぐる生命倫理	患者の人権(権利と擁護)、インフォームドコンセントなど				坂東	
⑤看護倫理とは	看護倫理の意義、歴史、倫理原則、看護実践上の倫理的概念、看護実践と倫理				大橋	
⑥専門職の倫理	看護師の専門職倫理の発展の経緯、ANA、ICN看護師の倫理綱領				大橋	
⑦看護職の倫理綱領	日本看護協会の倫理綱領				大橋	
⑧倫理的問題への対応	看護実践における倫理的問題の特徴、倫理的問題へのアプローチ(身体拘束、訪問看護師の葛藤など)				大橋	
⑨看護研究の倫理	看護研究における倫理的配慮など研究過程における倫理				大橋	
⑩課題:事例紹介・事例検討	領域における看護倫理(小児看護、母性看護、臨床研究における事例、地域看護など)				大橋	
⑪事例検討:発表	関心のある領域を選び、1事例を提示し倫理的問題について分析・検討する				大橋	
⑫各自事例検討					大橋	
⑬各自事例検討					大橋	
⑭各自事例検討発表	1事例について検討した内容を発表し、意見交換する				大橋	
⑮各自事例検討発表					大橋	
⑯意見交換	事例検討をとおして学んだ倫理について				大橋	
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 30 %	レポート: 40 %	発表: 20 %	実技試験: %	その他: 10 %		
使用テキスト: 適宜、資料を配布する。			その他参考文献など:			
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 本科目における学習内容の確認とまとめを実施する。適宜、レポートによる課題を提示する。テーマや提出日は講義内に伝える。						

看護学専攻1_7

科目名: 感染看護			担当教員氏名:		荒木晴美 亀山礼子 越坂裕子	
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	1年次	前期	専門性強化科目	講義	選択	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 病院看護師や訪問看護師等の経験を活かし感染防止対策の現状を説明し、基本的知識、技術を理解して苦痛を最低限に緩和できる実践的な行動がとれるように、演習を踏まえて習得する。						
授業科目の概要					キーワード	
新型コロナウイルス感染症(Covid-19)をはじめ、昨今の様々な感染症に対する知識を習得し、対象者の苦痛を最小限に緩和する看護実践を検討する。					感染の動向 感染対策	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標						
A 知識・理解力			基本的な感染防止対策の知識を理解し、状況を判断して感染行動ができる。			
B 専門的技術			感染拡大を防止できるように指衛生・個人防護具を必要な場面に必要な回数で実施(使用)できるように技術を習得する。			
D 問題解決力			多様な場で感染による問題出現に的確に対応できる。			
F チームワーク・リーダーシップ			感染制御について正しい知識のもと、チームの一員として行動できる。また、「ひと・こと・もの」に働きかけ、情報収集・分析を進め正しい判断のもとにリーダーシップがとれる。			
G 倫理観			感染防止対策を実施する上で、医療人として倫理観をもち、行動を正しく確実に実施できる。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 0 %		レポート: 60 %		発表: 40 %		実技試験: % その他: %
特記事項:						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 授業終了後						
授業計画・内容						担当教員
① オリエンテーション、感染看護の歴史と感染の動向						亀山・荒木
② 感染症・感染経路・滅菌と消毒・予防接種						亀山
③ 感染症の検査、コンサルテーション、連携等						亀山
④ 感染症の現状と対策 (新型コロナウイルス、サル痘等)						越坂
⑤ 感染症の現状と対策 (その他感染症)						越坂
⑥ 微生物の基本的知識 (MRSA、ESBL、菌血症等)						亀山
⑦ 感染症サーベイランス						亀山
⑧ 感染症患者の看護 (新型コロナウイルス感染症、結核、HIV、流行性ウイルス疾患等)						亀山
⑨ 感染看護の技術(CVなどの消毒、血液培養採取、針刺し事故、療養環境整等)						亀山
⑩ 感染予防や感染後の苦痛緩和に関する技術 (対象者や家族の不安を和らげる看護等)						亀山
⑪ 病院や施設、訪問系・通所系サービス等での感染事例についての現状調査 【臨地】						荒木
⑫ 病院や施設、訪問系・通所系サービス等での感染事例についての現状調査 【臨地】						荒木
⑬ ⑪⑫についてのまとめと分析、発表準備 【学内でまとめ】						荒木
⑭ ⑬についてのまとめの発表・討議						亀山・荒木
⑮ 災害時における感染症対策とまとめ						亀山
使用テキスト: 適宜紹介					その他参考文献など: 感染に関する研究論文	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 積極的な姿勢を望みます。						

専攻科看護学専攻

科目名:	地域包括ケア論	単位	開講時期	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択			
		2	前期	専門強化科目	演習	選択			
担当教員:	荒木 晴美								
授業科目の学習教育目標の概要:									
地域包括ケアの発展に寄与できる看護職としての基礎を強化するために、地域包括ケアの概念を理解し、法制度や仕組み等の理解を深めるために、調査や地域包括ケアの実現に向けて実施し学内において報告会を行う。また疾病者や障害者の家族支援についてディスカッションを通して知識を深める。									
授業計画									
授業計画		学習内容				担当教員			
①	オリエンテーション、地域包括ケアについて	シラバス確認、授業の進め方、地域包括ケアが考えられた経緯と政策				荒木			
②	政策の動向と地域社会の現状	政策と医療・保健・福祉の視点からの地域社会の現状				荒木			
③	地域に暮らす人びとの生活と健康	生活の中での健康と地域社会の役割				荒木			
④	地域包括ケアについての文献抄読、ディスカッション	過疎地域における地域包括ケアシステム				荒木			
⑤	地域包括ケアについての文献抄読、ディスカッション	県内の地域包括ケアシステム				荒木			
⑥	射水市の高齢化地域、過疎の地域の状況把握	県内の高齢化の状況と実施できていること、2022年度の地区踏査について				荒木			
⑦	射水市の地区踏査の結果から地域包括ケアシステム実現に向けての準備	地域包括ケアシステム実現に向けて 学生としてできることを具体化する				荒木			
⑧	地域包括ケアシステム実現に向けて	⑦の実施				荒木			
⑨	地域包括ケアシステム実現に向けて								
⑩	地域包括ケアシステム実現に向けて								
⑪	地域包括ケアシステム実現に向けて								
⑫	⑧～⑪のまとめ	⑧～⑪のまとめと発表、地域包括ケア実現に向けて看護職のあり方				荒木			
⑬	⑨～⑪のまとめ(発表)					荒木			
⑭	地域包括ケア実現に向けての家族支援	地域包括ケア実現のための療養者や障がい者の家族看護				荒木			
⑮	地域包括ケア実現に向けての連携・協働	地域包括ケアシステムの構築方法と多職種協働				荒木			
⑯	地域包括ケアと看護 まとめ	地域包括ケアと専門職としての看護職の役割、まとめ				荒木			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	40 %	発表:	20 %	実技:	30 %	その他:	10 %
使用テキスト: 適宜、資料を配布する。				その他参考文献など: 研究論文、宮崎徳子他: 地域包括ケアシステムのすすめ: これからの保健・医療・福祉					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 積極的な姿勢を望みます。									

223看護学専攻シラバス1_09

科目名:	ライフサイクルにおける看護支援	単位	開講時期	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択			
		2	前期	専門強化科目	講義	選択			
担当教員:	小倉之子、長谷川雅美、山元恵子、永山くに子								
授業科目の学習教育目標の概要									
人生の様々な年代における危機的状況や課題についてディスカッションを通して看護支援を実践するうえでの知識や技術を学習する。(乳幼児期、学童期、青年期、成人期、周産期、高齢期)									
授業計画		学習内容			担当教員				
①	ライフサイクルと健康	生活環境・習慣と健康生活,健康障害,ライフサイクルと健康課題			小倉				
②	健康と看護の役割	健康生活と健康課題における看護の役割			小倉				
③	小児の成長過程における課題と看護の役割	乳幼児期:未熟児、発達の遅れなど			山元				
④	小児の成長過程における課題と看護の役割	学童期:肥満や痩せ、ADHD、自閉症スペクトラム障害など			山元				
⑤	青年期の成長過程における課題と看護の役割(成人看護学の視点から見る)	食生活、やせ、ワーキングプア、飲酒、喫煙			小倉				
⑥	青年期・成人前期の成長過程における課題と看護の役割(成人看護学の視点から見る)	青年期:人工妊娠中絶、性感染症など			小倉				
⑦	青年期・成人前期の成長過程における課題と看護の役割(母性看護学の視点から見る)	成人前期:育児ノイローゼ、産後うつなど			永山				
⑧	乳幼児から青年期までの課題と看護支援	中間まとめ:③~⑦をふまえた青年期までの課題と看護支援をまとめ発表			小倉				
⑨	成人前期・中期の成長過程における課題と看護の役割	労働災害、業務上疾病など			小倉				
⑩	成人前期・中期の成長過程における課題と看護の役割(成人看護学の視点から見る)	生活習慣病など			小倉				
⑪	成人前期・中期の成長過程における課題と看護の役割(精神看護学の視点から見る)	DV(Domestic Violence)、自殺、うつなど			長谷川				
⑫	成人前期・中期の成長過程における課題と看護の役割(母性看護学の視点から見る)	更年期障害など			永山				
⑬	高齢期の成長過程における課題と看護の役割(高齢者看護学の視点から見る)	引退、スピリチュアリティ、エイジズム、高齢者虐待、			小倉				
⑭	高齢期の成長過程における課題と看護の役割(高齢者看護学の視点から見る)	老い、みとりなど			小倉				
⑮	成人期・高齢期の課題と看護支援	⑨~⑭をふまえた成人期以降の課題と看護支援をまとめ発表			小倉				
⑯	まとめ	ライフサイクルにおける看護支援のまとめ			小倉				
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	50 %	発表:	50 %	実技試験:	%	その他:	%
使用テキスト:適宜、資料を配布する。その他,各自の持っているテキストを参考(小児看護学概論テキスト、成人看護学概論テキスト、母性看護学概論テキスト、高齢者看護学概論テキスト:)とする				その他参考文献など: 1.平山朝子他,暮らしの中の看護-ライフサイクルと健康-,日本看護協会出版社ISBN4-8180-0024-8 2.薄井担子著,看護のための疾病論 ナースが視る病気 ISBN4-06-204784-5					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):使用テキストは各授業担当者が選定したものをを用いることとする。									

専攻科看護学専攻

科目名:	看護理論	単位	開講時期	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択			
		2	前期	専門強化科目	講義	選択			
担当教員:	高田 亮子(准教授)								
授業科目の学習教育目標の概要:									
看護理論の大理論、中範囲理論、実践理論について学び、実践への応用についての理解を深める。学習した理論をもとに自らの体験した看護について、理論的検証を行い言語化できる。									
授業計画									
授業計画		学習内容				担当教員			
① 理論とは何か	看護理論(看護のパラダイム)とは何か、看護と看護理論の歴史的背景				高田				
②看護理論の実践	適用の意義と方法				高田				
③理論の分類	大理論、中範囲理論、実践理論の定義とその内容				高田				
④看護のメタパラダイムと理論	システム理論及びモデル、相互作用理論及びモデル、ニーズ、問題志向の理論及びモデル、エネルギー分野理論及びモデル				高田				
⑤システム理論及びモデル	ロイを中心とし、レイニンガー、ベティ・ニューマン等				高田				
⑥相互作用理論及びモデル	ペプロウ、オーランド、ウィーデン・バックを中心として、アイモジン M.キング等				高田				
⑦ニーズ、問題志向の理論及びモデル	フローレンス・ナイチンゲール、ヘンダーソン中心として、アプデラ等				高田				
⑧エネルギー分野理論及びモデル	ロジャースを中心として、パースィ、ニューマン等				高田				
⑨中範囲理論の特徴と分類	看護のアセスメントと援助、病気・障害・人生の体験、危機・ストレス・不確かさの認知と対処、行動変容・行動強化、認識の変容				高田				
⑩オレムワセルマンアア不定理論、病みの軌跡モデル、危機理論、レジリエンス、エンパワメント、自己効力感、保健信念モデル	フィンク、アキュララの問題解決型機器モデル、ストレスコーピング理論				高田				
⑪個人ワーク(理論と実践の照合)	体験と理論の照合 体験の概要の抽出				高田				
⑫個人ワーク	照合する理論の発見				高田				
⑬個人ワーク	体験と理論の整合性の確認と言語化				高田				
⑭個人ワーク	発表内容をPPにまとめる				高田				
⑮発表会とまとめ	まとめ				高田				
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	70 %	発表:	20 %	実技試験:	%	その他:	10 %
使用テキスト: 978-4-8180-1718-4看護理論集(第3版) 日本看護協会出版会				その他参考文献など: 看護理論家とその業績(医学書院)					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 個人ワークで、理論を一つ選択し、その理論をもとに自己の実践をまとめ、プレゼンテーションを行う。看護実践のエビデンスを高める理論の意識的適応を体験する。									

専攻科看護学専攻

科目名: NO11	臨地実践研修	単位	開講時期	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択			
		10	通年	専門強化科目	実習	必修			
担当教員: NO5	坂東 紀代美 荒木 晴美 大橋達子 小倉 之子								
授業科目の学習教育目標の概要									
<p>看護師としてインターンシップにおける日々の看護活動の中で、看護職としての目標と課題を見出し、看護実践から得た知見を報告書に記録する。(50枚)</p> <p>対象の医療的・心理的・社会的ニーズに沿った知識・技術を習得し、教員との面談を実施しながら事例研究につなげる。</p> <p>開講前、担当教員全員でグループワークを行い、目標、学習内容、学生の指導方法など共通理解し各教員1名の学生を担当し、学生にかかわる。適時教員全員のカンファレンスを持ち、お互いの進行状況を確認しながら進める。</p>									
授業計画		学習内容				担当教員			
オリエンテーション 担当教員決定		看護実践の評価(レポート50枚)と1事例の看護実践報告について				全教員			
前期実践研修8h/30day。 1time/1week学内にて技術演習		看護計画立案、日々の活動から管理を学び、目標・課題につなげ成長をレポートにする。事例研究に着手する。				全教員			
中間カンファレンス		それぞれの学びを参考に、自分の活動を振り返り、後期につなげる。				全教員			
後期実践研修8h/24day		看護計画の評価を実施し、事例研究の文章化を進め発表する。実践研修での成長に関してを前期・後期合わせて50枚のレポートを作成。				全教員			
事例報告会		学修の評価、成長の報告、意見交換。レポート50枚、事例研究報告資料提出。				全教員			
看護実践研修の最終カンファレンス。						全教員			
成績評価の方法・基準： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	50 %	発表:	40 %	実技試験:	%	その他:	10 %
使用テキスト： 適宜、資料を配布する。		その他参考文献など：							
<p>講上の留意点（担当者からのメッセージ）：</p> <p>日々の実践を振り返り、事例課題を作成する。グループで意見交換、看護に対するリサーチクエスチョン、文献検索、結果へのアセスメント、考察、まとめのなど一連の看護過程を理解していく。</p> <p>また、担当教員との面談を行い、目標設定等計画的に進めていく力をもち学修活動を行ってほしい。</p>									

専攻科看護学専攻

科目名:	看護実践研究	単位	開講時期	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択
		5	通年	専門強化科目	演習	必修
担当教員:	長谷川 荒木 坂東 小倉 大橋					
授業科目の学習教育目標の概要						
看護現場におけるインターンシップで、研究テーマを見出し、研究計画書の作成、倫理的配慮、データ収集・分析といった一連の研究プロセスを学び、論文にまとめ発表する。						
授 業 計 画		学習内容			担当教員	
① オリエンテーション 授業の進め方について		看護研究を遂行する上での約束事			長谷川	
②～④ 看護研究の進め方・研究テーマと目的		実践研究テーマ・目的について検討			長谷川	
⑤～⑦ 研究計画書作成の手順		目的、分析方法、文献検索、論文作成などの具体的方法について講義			長谷川	
⑧～⑩ 研究計画書作成		研究計画書作成の実施と点検			全教員	
⑪～⑫ 研究計画書作成		研究計画書修正および完成（最終確認：長谷川）			全教員	
⑬～⑭ 看護研究倫理について		人を対象とする看護研究倫理審査用紙作成（チェックリスト含む）			全教員	
⑮⑯ 看護研究倫理審査		研究倫理審査を実施し、修正後承諾を得て研究開始とするプロセスの実施			長谷川	
⑰～⑱ データ収集		施設、研究対象者への説明と承諾後、データ収集開始			全教員	
⑳～㉓ 研究計画に基づいた分析と結果から考察の推敲		一連の論文作成プロセスに沿ったデータ分析と評価の実施			全教員	
㉔～㉗ 論文作成		論文形式に沿った論文作成			全教員	
㉘㉙ 論文審査		規定日までに提出された論文の審査			長谷川	
㉚ 論文発表会		学内での発表会で発表する			全教員	
成績評価の方法・基準： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト:	%	論文 80 %	発表: 20 %	実技試験:	%	その他: %
使用テキスト: 適宜、資料を配布する。				その他参考文献など: 質的研究の進め方・まとめ方(医歯薬出版)、質的研究Step by Step(医学書院)、質的研究と量的研究のエビデンスの統合(医学書院)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 主体的、積極的に取り組み、研究プロセスを修得してください。相談したいことがあれば可能な限り対応します。(必ずメールでアポイントしてください。)						